# アジアPMI月次レポート（2026年10月）
## ～PMIから読み解くアジア株式市場の注目点～

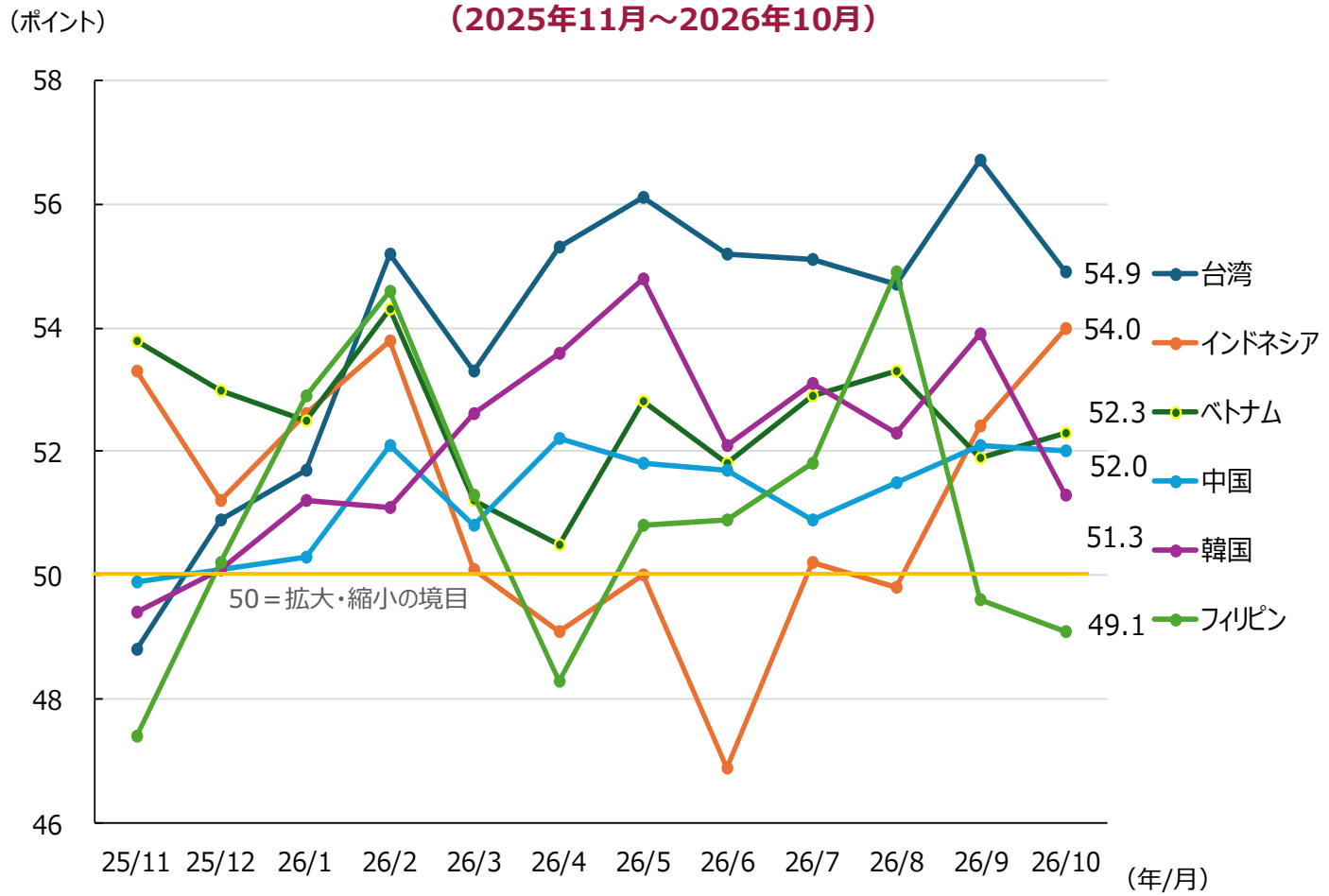
## 1．製造業は概ね拡大、国・地域間で勢いに差

■ 2026年10月の製造業PMI（購買担当者景気指数）*は、対象6カ国・地域のうち5カ国・地域で好不況の分かれ目となる50を上回りました。台湾が54.9で最も高く、インドネシアも54.0と改善が加速した一方、フィリピンは49.1と唯一縮小圏にとどまりました。

■ インドネシアでは、内外需が生産を押し上げる一方、ベトナムは輸出受注の減少と燃料・輸送コストの上昇が重石となりました。台湾と韓国では半導体需要が下支えとなるものの、生産・受注の伸びは鈍化しました。中国でも輸出受注が減速し、販売価格に下落がみられました。

*PMI：企業の購買担当者への調査から作る景気指標です。50が拡大と縮小の境目で、50を上回れば前月より景況が改善、下回れば悪化を意味します。実績統計より早く公表されるため、景気の先行指標として注目されます。

**PMIの推移**
**（2025年11月～2026年10月）**




（注）中国はRatingDog中国総合製造業PMI（S&P Global算出）。
（出所）S&P Global各月PMIプレスリリースのデータを基にキャピタル アセットマネジメント作成

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAMが運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

# 2．国地域別のポイント

## （1）ベトナム 52.3：拡大続くも、輸出とコストが重石

【景況感】PMIは52.3と、9月の51.9から小幅に上昇し、50を上回るのは1年間連続です。ただし、生産・新規受注の伸びは鈍化し、輸出受注と雇用は減少しました。燃料・輸送費の上昇で仕入価格も上昇しています。

【市場への示唆】生産拡大が工場稼働や工業団地の需要を支える一方、輸出受注の減少は輸出型企業の先行きに慎重さを強めます。燃料・物流費等コストを価格転嫁できるかが利益率の分岐点です。

## （2）インドネシア 54.0：内外需がけん引、改善が加速

【景況感】PMIは54.0と、50を上回るのは2カ月連続です。新規輸出受注の伸びは調査開始以来最大となり、生産も大きく増加しました。内需と外需がそろって製造業の拡大を支えています。

【市場への示唆】輸出受注の記録的な伸びは輸出型製造業に追い風で、国内企業を支えています。ただ、受注増が利益増につながるかは生産コスト次第です。今後は輸出の勢いが持続するかを確認したいところです。

## （3）フィリピン 49.1：唯一の50割れ。需要の弱さが鮮明

【景況感】PMIは2カ月連続で50を下回り、6カ月ぶりの低水準となりました。生産と新規受注が減少し、購買活動の削減や雇用の減少も続くなど、需要の弱さが目立ちます。

【市場への示唆】受注減に加え購買・雇用も縮小しており、製造業では設備投資や仕入れの慎重化が懸念されます。株式市場では内需企業のうち新規受注の回復が早い企業・業種を見極めたい局面です。

## （4）中国 52.0：民間調査は拡大維持も、輸出の勢いに陰り

【景況感】民間調査のPMIはほぼ横ばいで拡大圏を維持しました。生産の伸びは加速しましたが、新規輸出受注の伸びは鈍化し、輸出価格も下落しました。値下げで販売を支える動きもみられましたが、政府の公式PMIは49.3と50を割り、民間調査との間で差が見られます。

【市場への示唆】民間調査の底堅さと公式PMIの50割れは、企業・業種間の景況感の差を示唆しています。輸出数量が伸びても輸出価格が下がれば収益は改善しにくいと思われます。株式市場では売上高の伸びより利益率の改善度合いが注目されると思われます。

## （5）台湾 54.9：高水準を維持。拡大ペースは鈍化

【景況感】6カ国・地域で最も水準が高く、50を上回るのは11カ月連続です。ただし前月の56.7から低下し、生産・受注の伸びも鈍化しました。AI関連需要を背景に納期が長期化し、在庫積み増しの動きも見られます。

【市場への示唆】AI関連の受注は半導体・電子部品企業に追い風ですが、納期長期化は供給能力の制約も示しています。在庫の積み増しが実需に見合うか、成長期待の高い銘柄では受注増と利益率を併せて確認する必要があります。

## （6）韓国 51.3：拡大は続くも、ペースは2月以来の鈍さ

【景況感】PMIは11カ月連続で50を上回るが、2月以来の低水準です。半導体需要が生産を支える一方、新規受注の伸びは鈍化し、自動車向け需要の弱さや原材料不足も重石です。雇用も減少に転じました。

【市場への示唆】半導体需要の下支えと自動車向け需要の軟化が併存し、同じ韓国株でも業種ごとの業績格差に注意が必要です。原材料不足が生産を制約する可能性もあり、新規受注と雇用の回復が拡大持続の判断材料になります。

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAMが運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。